

報 告 書

(3 班)

開催日時	平成 2 5 年 1 月 3 0 日 (水)		
開催場所	陸前高田市役所		
出席議員	挨拶 藤倉 泰治 (班長)		
	司会進行	佐竹 強	
	報告者	清水 幸男 (幹事)	
	記録者	菅原 悟 (副班長)、菅野 定	
参加人数	4 0 人		
主な要望 提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮設住宅居住者の避難場所を改定してほしい。</li> <li>・ 市職員の配置も明確に。</li> <li>・ 市役所位置を最良となるよう検討願う。</li> <li>・ 国道 4 5 号において津波警報発令時にも車が通行していたが、通行止めにする必要があるのでは。</li> <li>・ 市内、特に被災した高田町内の道路案内板を設置してほしい。</li> <li>・ みなし仮設に入居しており、大家に入居契約の更新はしないとされたが、対処願いたい。</li> <li>・ 土地の販売価格を条例等で規制できないものか。</li> <li>・ 被災した気仙中校舎をメモリアル公園内に残す計画があるが、なぜか。反対である。</li> <li>・ 復興計画図を立体的なもので作製し、誰でもイメージできるようにしてほしい。</li> <li>・ 被災浸水した水田の転用・換地の減歩率を考慮してほしい。</li> <li>・ 防災集団移転候補地は高所地であるため高齢者には適さない。</li> <li>・ 議会としての情報公開を積極的に行ってほしい。</li> <li>・ 復興期間が長期化してゆくと一人暮らしが不安である。</li> <li>・ 防潮堤建設を廃止して、その予算を他に活用できないのか。</li> <li>・ かさ上げ後の街並み形成では、時間がかかりすぎる。</li> <li>・ 一本松再生事業などの無駄と思われる事業は議会でしっかりと精査すべき。</li> </ul>		
所 感	<p><b>藤倉泰治</b></p> <p>みなし仮設住宅の人たちの不安な心情や、被災者の方々の心のケアの支援体制など、日々の深刻に困っている実情を知ることができた。新しい商店街、市街地や市役所の位置についての意見や、防潮堤やかさ上げ地盤についての意見もあった。行政からもっと情報提供を行うとともに、主権者である市民の意見や提言を聞き、一緒にまちづくりを進める大切さを痛感</p>		

した。「市民との話し合いの場をもっと」という声もあった。議会として、意見・要望を聞くだけではなく、復興事業の進み具合を把握し、議会報告会の場で伝え、少しでも希望をもってもらうようにすべきと感じた。また、報告会の持ち方で、重点テーマを設定して話し合うことも必要と感じた。議会だよりについての意見もあった。

#### **菅原 悟**

メモリアル公園内に被災した気仙中学校校舎を残存させる予定に対する反対意見が出されたが、このような意見は同じく被災した旧雇用促進住宅の残存計画においても同様の意見が多くあると聞かれることから、議論を重ねる必要性を感じた。

また、長期に及ぶ仮設住宅・みなし仮設住宅生活における様々な不安感があることから、ケア対策の早急な対応の必要性を感じた。

#### **清水幸男**

大震災を検証し、今後の防災意識の高揚や明確な避難方法等の防災マップ策定、一時避難や的確な対策が図られる市役所の位置、都市計画等市民が分かりやすい情報開示、長びく仮設生活と心のケア対策等復興に関する意見、要望が多く、「災害に強いまちづくり」と「早期対策」を強く感じた。

#### **菅野 定**

今の高田市の人口減少率を考えると20年後の当市の人口がどのようなになるのか切実な問題であり、市民からこのような問題を投げかけられ、早期に対策を考えなければと再認識しました。

市役所建設を高台に要望する声が多い様であり、また新しい高田の商店街をつくるにおいて市民と十分に話し合うことが必要であると感じました。

陸前高田市議会議長 伊藤明彦 殿

平成25年2月18日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成24年度議会報告会第3班

班長 藤倉泰治 ㊞